

「制度」から時代の特色をとらえる歴史授業の開発 —高等学校地理歴史科日本史Bにおいて—

教科・領域教育学専攻
社会系コース
M10156J
馬場 順平

I 研究の目的と方法

1 研究の目的

「時代の特色」をとらえるための視点を明確にし、生徒が学習を通して、「どのような時代であったか」ということがわかる授業を開発する。

2 研究の方法

- (1) 「時代の特色」を学習する上での課題を明らかにし、社会学の研究成果である「社会構造」および「制度」に着目することで、解決することができることを明らかにする。
- (2) 社会学の研究成果から、「制度」と社会構造の関連を明らかにする。
- (3) 社会科教育の研究成果から、「制度」を授業に組み込む方法を明らかにする。
- (4) (1)～(3)で明らかにしたことをもとに、授業モデルを提示する。

II 論文構成

序論

第I章 高等学校地理歴史科日本史Bにおける
「時代の特色」の取り扱い

第II章 社会構造と「制度」

第III章 探究学習で構成される歴史授業

第IV章 「制度」から「時代の特色」をとらえる
高等学校地理歴史科日本史Bの授業モデル

結論

III 研究の概要

1 高等学校地理歴史科日本史Bにおける「時代の特色」の取り扱い

「時代の特色」は、「特色」という言葉の意味から、「他の時代と異なるところ」ということができる。『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』の記述からも、「時代の特色」は、他の時代と比較することで明確にすることができるということがわかる。

そこで、時代を比較する視点として、社会構造を設定する。そして、各時代の社会構造を比較することを通して、違いを抽出することができれば、「時代の特色」をとらえることができる。

そこで、社会学の研究成果から、社会構造がどのような構成となっているのかということをも明らかにする。

2 社会構造と「制度」

社会学の研究成果から、社会構造は「社会成員が要求を充足するために、社会が用意している手段の体系」といえる。また、制度は役割統一の複合であり、行動の規範を示すものである。そこで、本研究では制度を「行動の規範を構成している、目的達成の手段を規定しているもの」と定義し、これを「制度」と表記する。

社会構造の構成要素として、「制度」がわかれば、社会においては、どのように行動することが規範となっていたのかということがわかる。また、他

の時代の社会構造との違いを考えると、**「制度」**という観点から比較することが可能となる。

また、社会構造が機能不全に陥ることで発生する**「アノミー」**は、**「制度」**の移り変わりをとらえることができる。

社会学におけるアノミーの概念は、デュルケーム(Emile Durkheim)が最初に提唱した。マートン(Robert K.Merton)は、文化的目標と制度的手段の関係に着目し、逸脱行動からアノミーが現出するということを示した。

逸脱行動の発生によって、既存の**「制度」**が機能しなくなることで、社会がアノミーへと移行する。そして、アノミーは新たな**「制度」**が作りだされることによって、終息する。つまり、アノミーを境にして**「制度」**が変化するということがある。

マートンのアノミー論を手がかりとして、新たな**「制度」**を作り出す逸脱行動を類型化すると、次の3点があげられる。

- (a) 逸脱者が権力者であった場合。
- (b) 逸脱行動の結果、権力者によって認められた場合
- (c) 逸脱行動が集積したことによって、権力者が失墜した場合

この類型に当てはめることのできる歴史事象は、新たな**「制度」**と以前の**「制度」**がともに学習することができるため、**「時代の特色」**をとらえる歴史授業において、有効である。

3 探究学習で構成される歴史授業

講義形式の授業は、生徒の認識が教師の説明によって与えられたものになってしまうため、暗記に陥りがちである。そこで、歴史授業は探究学習によってなされるべきである。そうすることで、歴史事象を**「制度」**から習得することが可能となる。

岩田一彦は、**「知る」**と**「わかる」**過程を明確にした、概念探究・価値分析型社会科を提唱し、米田豊はこれに**「習得・活用・探究」**を位置づけた**「探究Ⅰ・探究Ⅱ」**の授業構成理論を提唱している。

本研究では、歴史事象からその時代に働いていた制度を習得する過程を**「探究Ⅰ」**で、習得した知識を活用して、**「時代の特色」**を獲得する過程を**「探究Ⅱ」**で編成し、授業の開発を行う。

4 「制度」から「時代の特色」をとらえる高等学校地理歴史科日本史Bの授業モデル

授業モデルは、小単元**「院政期の社会」**の全5時間である。

第1時～第4時で、院政期に働いていた**「制度」**を習得し、第5時で前時までに習得した知識を活用して、**「時代の特色」**を獲得する授業モデルを提示した。

IV 研究の成果と今後の課題

本研究の成果は、社会学の研究成果から、社会構造と制度の関係性を明らかにしたことで、時代の社会構造を比較して**「時代の特色」**を獲得することができる授業モデルを提示することができたことである。

今後の課題は、次の5点である。

- ①開発した授業モデルに基づき、実践を行うことで、理論の整合性を明らかにする。
- ②歴史事象における**「制度」**をより明確にする。
- ③制度について取り扱った歴史教育理論の先行研究を分析する。
- ④**「時代の特色」**の獲得を目指した歴史授業の分析を行う。
- ⑤授業モデルの改善を行う。

主任指導教員 原田 智仁
指導教員 米田 豊